

Ⅲ-3 子どもの感受性にどう向き合いますか

エピソード1

小学校2年生のさくらちゃんは、少し太めの赤いほっぺの女の子です。普段から自分でも気にしています。クラスの友達から「りんごっ子!!」と、からかわれています。その場では気にしないように笑っていますが、家に帰ると悲しくてしかたありません。



Work①

あなたは、子どもの頃にかからわれたことがありましたか。その時どんな気持ちになったか思い出してみましょう。

Work②

あなたは、子どもの頃に人をからかったことがありましたか。その時どんな気持ちになったか思い出してみましょう。

Work③

次の4人の意見についてどう思いますか。あなたはだれの意見に賛同しますか。

Aさん: そんな小さなこと気にするなんて、これから先、やっていけないよ。

Bさん: 親しみをもって、言ったんじゃないの? 悪気があるわけじゃないし……。

Cさん: 本人がいやだと思ったら、それはいじめと同じよ。

Dさん: やめて! と、言えない子のことも分かってあげて、周りが考えてあげなきゃ。

Aさん……	()
Bさん……	()
Cさん……	()
Dさん……	()

わたしは、()さんの意見に賛同します。

エピソード 2

友達のゆきちゃんが帰り道、さくらちゃんを見かけ、「りんごっ子ー!!」と遠くから呼んでいました。それを聞いて男子のいさむ君は、「りんご、おれにくわせろー」とさくらちゃんに駆け寄ってきました。さくらちゃんは、泣き出して家のほうへ走って行ってしまいました。これを見ていたゆきちゃんは「あー、いけないの。いさむ君たら、さくらちゃんをいじめた!」と大きな声で言いました。



Work④ それぞれの親の立場になったらどんな対応するか考えてみましょう。

ゆきちゃんの親の場合

いさむ君の親の場合

さくらちゃんの親の場合

Work⑤

自分の意見を発表しながらグループで話し合ってみましょう。「そんなつもりで、言っていないのに…」という感情の行き違いについても考えてみましょう。